

核兵器禁止条約第 2 回締約国会議
2023.11. 27 ハイレベルセッション

核戦争のない世界の早い実現の訴え

日本被団協事務局長 木戸季市

私は長崎で被爆し、現在日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の事務局長をしている木戸季市と申します。核兵器禁止条約の第 2 回締約国会議で発言できるという機会をいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、今、核戦争が起こされるのではないかという恐怖にかられています。核戦争の危機が高まっています。ウクライナとガザから伝えられる光景は被爆者にとってあの日の再来です。核戦争が起これば何もなくなった真っ黒の街、死体の山、死の世界が残るだけです。

広島・長崎に投下された原爆は「いのち、からだ、くらし、こころ」の被害をもたらしました。原爆は、人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許さない絶滅だけを目的にした「狂気」の兵器です。人間として認めることのできない絶対悪の兵器です。

原爆投下によって世界は一変しました。原爆が人類を滅ぼすか、原爆を無くし人間が生き残るかの世界です。

1954 年 3 月にアメリカがおこなった水爆実験によるビキニ事件を契機に起こった原水爆禁止運動に励まされ、広島・長崎の被爆者は被爆から 11 年後の 1956 年 8 月に日本被団協を結成しました。「私たちは自らを救うとともに、私たちの体験をとおして人類の危機を救おう」と誓い合いました。それから今日まで、「ふたたび被爆者をつくるな」とあきらめることなく闘ってきました。日本国内はもとより世界の各地を訪れ、非人道的な核兵器被害の実相を伝え、核兵器の廃絶を訴え続けてきました。核兵器の非人道性に関する国際会議、核兵器禁止条約交渉会議に参加し核兵器禁止条約の成立にも尽力しました。

今日から始まる第 2 回締約国会議では、昨年ウィーン宣言と行動計画を受け、核被害者への援護をはじめ希望をもたらす会議となることを心より祈念しています。